【006】　次のA～Eのうち、アメリカの大統領制に関する記述の組合せとして、妥当なのはどれか。

A：大統領は、議会が大統領を選ぶ間接選挙によって選出される。
B：大統領は、議会の不信任決議に対し、議会を解散する権限をもつ。
C：大統領は、議会が可決した法案への署名を拒否する拒否権をもつ。
D：大統領は、議会に対し、教書を送付する権限をもつ。
E：大統領は、憲法の最終解釈権をもち、違憲立法審査権を行使する。

1　A、B
2　A、E
3　B、C
4　C、D
5　D、E

【007】　アメリカ合衆国の政治制度に関する次の記述のうち、妥当なものはどれか。

1　アメリカの大統領は、すべての有権者による直接選挙で選ばれた行政府の最高責任者である。したがって、大統領は議会の信任を得る必要はなく、任期の4年間はその地位に留まることができる。
2　アメリカ連邦議会は両院制で、元老院(上院)と代議員(下院)の2院により構成される。下院は上院よりも優位に立ち、大統領が行なう条約の締結や高級官吏の任命に対する承認権をもっている。
3　アメリカ合衆国では司法権の独立性が極めて強く、法令や行政処分の内容が憲法に違反しないかどうかを審査する権限、すなわち違憲立法審査権が裁判所の権限として憲法に明文化されている。
4　アメリカ大統領は、ジョン・ロックの思想に強く影響された厳格な権力分立制をとっている。政治機構は憲法に定められており、立法権は議会に、行政権は大統領に、司法権は裁判所に属する。
5　アメリカの大統領は議会に解散を命じたり、法律案を提出することはできない。大統領が政策を実施するうえで必要とする立法や予算は、教書を通じて議会に勧告されるに留まる。

【008】　アメリカ合衆国の政治制度に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1　憲法上、大統領の任期は1期4年と定められているが、再選に関する規定は設けられていない。しかし、初代大統領のG.ワシントンが2期8年で退任したため、再選は1度限りとする不文律が成立しており、これまでに3選を果たした大統領は存在しない。
2　大統領の下には、国務長官や国防長官をはじめとする各省の長官で構成される内閣が置かれている。内閣は憲法上、大統領に対して連帯責任を負うと定められているため、各長官には通常、大統領の政治的な支持者などが任命される。
3　大統領は、自らの政策決定を補佐させるために大統領補佐官を任命する。彼らは平時には各省に属し次官や次官補として活動するが、非常時においては大統領府において大統領を直接補佐する。キューバ危機への対応で大きな役割を果たしたH.A.キッシンジャーはその代表例である。
4　大統領は、上下両院を通過した法案に署名せず意義を付して議会に法案を送り返すことができる、これが拒否権と呼ばれるものであるが、大統領は拒否権を発動しても、両院のそれぞれ3分の2以上が法案の再可決に同意すれば、法案は成立する。
5　大統領は、両院の議員が推薦し、国民投票で選ばれた大統領選挙人団による間接選挙で選ばれることから、国民に対して責任を負うとともに議会に対しても責任を負う。このため、慣例として、上院議長には副大統領が、下院議長には国務長官がそれぞれ就任することになっている。

©Civilセミナー ZEN《問題野郎》

【006】 **4** C、D

A：アメリカの大統領は大統領選挙人によって選出される間接選挙。
B：議会の解散権は持たない
E：違憲立法審査権をもつのは裁判所

【007】 **5**

1 大統領選挙による間接選挙
2 どちらが優位ということはない
3 明文化はされていない
4 ロックは二権分立

【008】 **4**

1 憲法の規定により1期4年と定められている。
過去にF.ルーズヴェルトが4期やっていた(途中で死去)
2 各省の長官で構成される内閣は置いていない
3 大統領補佐官は各省に属していない
5 国民投票で大統領選挙が選ばれる

©Civilセミナー ZEN《問題野郎》